Ｎｏ．６６１【２０２５年７月１８日配信】

千富町の一本松（担当：工藤大輔）

みなさん、こんにちは。室長の工藤です。

10 年前のことですが、平成 27 年（2015）2 月 13 日に配信のメールマガジンNo.145 で、昭和 53 年（1978）の青森市制 80 周年事業として実施した「青森 80 選」を取り上げました。これは、市民のはがき投票と委員による推薦でもって、「青森らしさ」を見て取ることができる歴史や自然・名所、行事などを 80 選んだものです。

そのなかのひとつに「千富町の一本松」があります。

万太郎堰の向い側にあるこの一本松が選出された背景は、「昔は、浪館へむかうには久須志神社の所からたんぼの細い道を通って行きましたが、そのとちゅうに大きな一本松があり、休み場所となっていました（『青少年のためのあおもり 80 選』青森市、1978 年）」というところにあるようです。

ところが、現在この一本松といえば「一本松の決闘」、すなわち万太郎堰に関わった水争い（水利をめぐるトラブル）の現場であるという、一本松の脇にある解説板に記されたストーリーで理解するのが一般的ではないでしょうか。先日、ラジオの生番組出演した際、万太郎堰に関する情報を視聴者から集めたところ、情報を送ってくださった視聴者のおじいさんが「一本松の決闘」に参加していたとか。このストーリーのすそ野の広さを感じます。



千富町の一本松



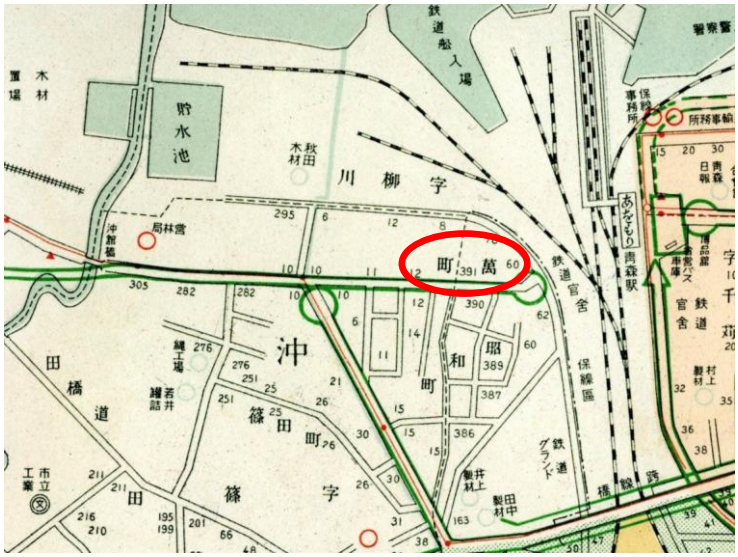
一本松の解説板

万太郎堰と水争いについては、肴倉弥八「青森平野開拓雑考」（1957 年）で指摘してはいるものの実例が示されてはいません。ですから、一本松が争いの現場であったことが歴史的事実であった確証はありません。また、肴倉は万太郎堰の開さく者である「浅利万太郎庄屋が財産を減らしたのは、水争いの調停に多額の金を出資したためであるという（肴倉『青森市町内盛衰記』1953 年）」との伝聞情報を記しています。

ですから、万太郎堰にまつわる一本松・水争いのストーリーは、必ずしも実証的ではなく、地域伝承的に伝わっていたものを昭和 20 年代末～同 30 年代初頭に肴倉が拾い上げ「文字化」することで、歴史事実化されていったのかもしれません。一方、昭和 50 年代おいてこれとは異なるストーリーがあることは注目しておきたいところです。

というのは、たとえば JR 青森駅西口付近にあったという地名「萬町（よろずまち）」（現在旧町名表示柱が設置されています）の由来についても複数存在するようで、「萬」は「万太郎」にちなむとするものもあります。「万太郎」にまつわる事柄の周辺には複数の伝承的なストーリーが存在するケースがあるのです。

その意味では「聞き取り調査」が重要になってくるのでしょう。これは大きな課題です。



萬町附近（「都市計画 青森市街全図」1936 年発行）